

継続的に改善に取り組む組織に変革、顧客の評価も高まる 扶桑工業、中産連のVM推進賞を受賞

扶桑工業は中部産業連盟が制定しているVM賞認証制度に基づくVM推進賞を受賞した。昨年12月10日に都内で授与式が行われた。

VMとはビジュアル・マネジメント(Visual Management)の略で、中産連が推進している現場の改善・改革を図る経営革新活動。生産現場に加え、間接部門も対象に全社的に改善に取り組み、企業体質の変革を促しながら生産性向上を実現していくところに特徴がある。

中産連では随時、VMに取り組んでいる企業の実績を審査し、一定の水準に到達した企業に授与されるのがVM賞である。VM賞には達成度合いに応じてさまざまな賞が用意されている。

今回受賞した扶桑工業(吉本直行社長)は建設機械部品やディーゼルエンジン部品などの製造を手がける機械部品メーカー。滋賀県長浜市に本社を置き、長浜市内に長浜工場、新庄工場、米原市内に近江工場がある。近畿地方の企業としては初の受賞。

同社は従来から技術力だけでは差別化が困難との認識からマネジメント力の向上に努めてきた。この取り組みを深化していくための方策を模索して

いた時にVM本賞受賞企業である埼玉富士(埼玉県秩父市)の工場見学会に参加する機会があり、その姿に衝撃を受け、導入を決断。

2011年1月にVM活動を本格的に開始し、以来、5S活動、ファイリングシステムの導入、方針および目標管理の実践、フレキシブル生産システム構築などに全社的に取り組んできた。その結果、不良率の減少といった定量的な効果をはじめ、マネジメント力全体が向上したという。

これまでの取り組みを総括して吉本社長は「まだ理想としているレベルに到達していませんが、これまでのような生産現場だけの活動から間接部門を含めた全社的な活動に広がってきたことは大きな変化でした」と語り、手応えを感じているようだった。

高橋善孝専務も、「品質管理の担当社員がPDCAを徹底して成果を上げたことをアピールしていたのを目の当たりにして、成長ぶりに驚きました」と語り、活動の成果を実感していた。

その姿は顧客からも高く評価され、新規の取引にもつながったという。新庄工場を見学した既存の大手顧客からも現場の変化を評価してもらい、優秀な協力工場として表彰されたという。

指導に当たった中産連東京本部の五十嵐瞭専務理事は「指導日には吉本社長と高橋専務が終日、現場に密着し、社員とともに熱心にVMに取り組んでいただきました。その姿勢が従業員のモチベーションを高めてくれたのではないかと思います。本社、3カ所の工場、サポートセンターとすべての拠点で全員が同じ価値観を持って活動を進めたことが成果につながったのでしょう」と評価していた。

厳しいグローバル競争を勝ち抜くため、さらなる活動の展開が期待される。

